

【 共通問題 】(スクールリーダーシップ開発専攻・教科教育専攻 共通)

(令和2年度入試の問題)

共通科目の問題には「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」があります。  
「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」の答案用紙はそれぞれ1枚です。「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」はそれぞれ2問ずつありますので、すべて解答してください。

共通科目 ( 「教育原理に関する問題」 )

問題1 次の ( ) の中にあてはまる適切な用語を、次ページに示した選択肢の中から一つ選び、その事項の記号を解答欄に記入しなさい。

(1) 教科書は正式には「教科用図書」といい、学校で中心的な ( ① ) として使われる、児童生徒用の図書のことを指す。日本では学校教育における教科書の重要性を踏まえ、原則として、学校では ( ② ) の ( ③ ) に合格した教科書を使用しなければならない。教科書無償 ( ④ ) 制度は、国公立の義務教育諸学校の全児童生徒について、使用する全教科の教科書を ( ⑤ ) が購入し、無償で ( ④ ) するものであり、1963(昭和38)年度に開始された。

(2) ( ⑥ ) 年に発布された「教育ニ関スル勅語」(教育勅語)は、全国の学校に ( ⑦ ) され、祝祭日に学校の ( ⑧ ) で奉読されるようになった。さらに当時の ( ⑨ ) により、外国語に翻訳された。1948(昭和23)年、衆議院「教育勅語等の排除に関する決議」、参議院「教育勅語等の ( ⑩ ) 確認に関する決議」が、それぞれ決議された。これらによって教育勅語は ( ⑩ ) し、学校教育から排除された。

(3) 学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号、平成三十年六月一日公布(平成三十年法律第三十九号)改正)の第一条には、「この法律で、学校とは、( ⑪ )、小学校、中学校、( ⑫ )、高等学校、中等教育学校、( ⑬ )、大学及び ( ⑭ ) とする」とある。また第十条には、「私立学校は、校長を定め、大学及び ( ⑭ ) にあつては ( ② ) に、大学及び ( ⑭ ) 以外の学校にあつては ( ⑮ ) に届け出なければならない」とある。

選択肢（使わない用語もある）

- |            |                 |                 |
|------------|-----------------|-----------------|
| (ア) 検閲     | (イ) 大学校         | (ウ) 特別支援学校      |
| (エ) 国      | (オ) 消滅          | (カ) 教育内容        |
| (キ) 失効     | (ク) 幼稚園         | (ケ) 地方公共団体      |
| (コ) 職業訓練校  | (サ) 1941（昭和 16） | (シ) 文部科学大臣      |
| (ス) 供与     | (セ) 配布          | (ソ) 支援          |
| (タ) 儀式     | (チ) 検定          | (ツ) 義務教育学校      |
| (テ) 教材     | (ト) 日本語学校       | (ナ) 東京文理科大学     |
| (ニ) 市区町村の長 | (ヌ) 巡回          | (ネ) 1890（明治 23） |
| (ノ) 高等専門学校 | (ハ) 告示          | (ヒ) 保育園         |
| (フ) 日本人学校  | (ヘ) 給与          | (ホ) 裁量          |
| (マ) 文部科学次官 | (ミ) 文部省         | (ム) 都道府県知事      |

問題 2 A 群の説明にもっとも関係の深い用語を、次ページに示した B 群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A 群】

- (1) 自然環境や社会環境を含め、地球全体が持続できる開発のための教育。
- (2) イタリアの医師・教育家。独自の教具による感覚教育を提唱した。
- (3) 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。
- (4) 国際的に通用する大学入試資格の一つ。2013（平成 25）年の閣議決定により、国内のディプロマプログラム認定校を、200 校に増加させることを目標とする。
- (5) 社会の構成員として備えるべき資質を育成するために行われ、集団への所属意識、権利の享受や責任・義務の履行、公的な事柄への関心や関与などを開発し、社会参画に必要な知識、技能、価値観や傾向を習得させる教育。
- (6) 幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育。
- (7) 日本語の力が不十分なため、学年相当の学習言語が不足し、日常の学習活動に支障が生じている児童生徒に対して、学習活動に参加するための力の育成を目指したカリキュラム。
- (8) 性別による従来の固定的な役割分担にとらわれず、男女が自らの能力を生かし、平等かつ自由に行動・生活できること。
- (9) IOC 委員、講道館の設立者。東京高等師範学校長を約 20 年務めた。
- (10) 2008（平成 20）年 3 月告示の学習指導要領によって小学校に導入され、2011（平成 23）年からは第 5・6 学年で年間 35 単位時間が配当された。

【B群】(使わない用語もある)

- (ア) ESL カリキュラム
- (イ) 日本国憲法
- (ウ) ケイ (Key, E. K. S.)
- (エ) 国際バカロレア (International Baccalaureate)
- (オ) ESD (Education for Sustainable Development)
- (カ) 特別支援教育
- (キ) 務台理作
- (ク) シティズンシップ教育 (citizenship education)
- (ケ) ジェンダーフリー (gender-free)
- (コ) 外国語活動
- (サ) 子どものための哲学 (philosophy for children, p4c)
- (シ) JSL カリキュラム
- (ス) 嘉納治五郎
- (セ) 英語科
- (ソ) 国際理解教育
- (タ) モンテッソーリ (Montessori, M.)
- (チ) フェミニズム (feminism)
- (ツ) イエナ・プラン (Jena-Plan)
- (テ) 教育基本法
- (ト) GCSE (General Certificate of Secondary Education)

問題1 A群の説明にもっとも関係の深い用語をB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) 発達に関するシュテルン (Stern, W.) の理論。
- (2) 乳児期に見られる感覚運動的活動であり、身体的な自己認知と見なされている。
- (3) サーストン (Thurstone, L. L.) による知能の理論。
- (4) 性の早熟化や身長・体重などの成長の世代的な促進傾向を指す概念。
- (5) ピアジェ (Piaget, J.) の認知発達理論において、認知的枠組みが形成されていく過程であり、同化と調節の働きによって導かれる。
- (6) 精神分析学の概念で、本能的性欲動の源泉。
- (7) 知的発達に大きな遅れはないのに、学習面で特異なつまずきや習得の困難を伴い支障をきたしている状態。
- (8) コッホ (Koch, K.) により創始された実のなる樹木を1本描かせる心理テスト。
- (9) 家では普通に話しているのに、学校などの特定の場面では話せないことが持続する状態。
- (10) バンデューラ (Bandura, A.) が社会的学習理論を提唱するうえで中心においた学習。

【B群】(使わない用語もある)

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| (ア)自我 (ego)   | (サ)HTP テスト (House-Tree-Person Test) |
| (イ)超自我 (super-ego)                                      | (シ)バウムテスト (Baumtest)                |
| (ウ)選択性緘黙 (selective mutism)                             | (ス)均衡化 (equilibration)              |
| (エ)輻輳説 (convergence theory)                             | (セ)脱中心化 (decentering)               |
| (オ)観察学習 (observational learning)                        | (ソ)発達加速現象 (acceleration)            |
| (カ)系列学習 (serial learning)                               | (タ)ハンドリガード (Hand regard)            |
| (キ)多因子説 (multiple-factor theory)                        |                                     |
| (ク)イド (id)  |                                     |
| (ケ)認知症 (dementia)                                       |                                     |
| (コ)学習障害 (LD: learning disabilities, learning disorders) |                                     |

問題2 A群の人名にもっとも関係の深い用語をB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) 吉本伊信
- (2) ゲゼル (Gesell, A. L.)
- (3) ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.)
- (4) ウェクスラー (Wechsler, D.)
- (5) エリクソン (Erikson, E. H.)
- (6) ウィリアムソン (Williamson, E. G.)
- (7) ケーラー (Köhler, W.)
- (8) ソーンダイク (Thorndike, E. L.)
- (9) シェルドン (Sheldon, W. H.)
- (10) デシ (Deci, E. L.)

【B群】(使わない用語もある)

- (ア) レディネス (readiness)
- (イ) 阿閼世コンプレックス (Ajase complex)
- (ウ) アニミズム (animism)
- (エ) 内言／外言 (inner speech/ outer speech)
- (オ) 内観療法 (Naikan therapy)
- (カ) 成人知能検査 (adult intelligence scale)
- (キ) 指示的カウンセリング (directive counseling)
- (ク) 葛藤 (conflict)
- (ケ) 類人猿の智慧試験 (Intelligenzprüfungen an Menschenaffen)
- (コ) サイン・ゲシュタルト (sign-gestalt)
- (サ) アイデンティティ (identity)
- (シ) アダルト・アタッチメント・インタビュー (adult attachment interview)
- (ス) 類型論 (typology)
- (セ) 自己決定理論 (self-determination theory)
- (ソ) 問題箱 (puzzle box)